

## 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和6年2月13日（火）午後1時から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

### 【会見項目1：「社会の変化や災害を乗り越え成長し、明るい未来へまっすぐに進む予算」 令和6年度長岡市当初予算（案）について】

#### （市長）

令和6年度は変化の年になると思っております。アメリカを含めた主要国の政治に変化が起きており世界の経済にも影響していくと思っております。その影響を受けて日本もどんどん変わっていくと考えています。日本経済は失われた30年と表現され、GDPや実質賃金が上がっていないと言われていますが、私はものづくり産業など長岡の産業界は力があると見ており、大きく成長する可能性が十分にあると考えております。

そうした不透明な時代だからこそ、長岡の「米百俵」と「市民協働」という原点に立ち戻り、将来を見据えて予算編成しました。令和6年能登半島地震の教訓も踏まえ、中越大震災・7.13水害から20年という年にあたって、災害に強く誰もが安心安全に生活でき、明るい長岡の未来をつくる予算として、全庁を挙げて取り組みました。

重点施策として四つの柱を掲げています。

一つ目は、『災害に強く誰一人取り残さない安全安心なまちづくり』です。能登半島地震を教訓にして取り組むべき課題を盛り込んでいます。津波、地盤災害、水害などへ改めて取り組んでいきたいと思っております。そして長岡の米百俵の原点である子育てを社会全体で応援し、健康・医療・福祉を充実させながら、安心安全な暮らしを実現していきたいという予算です。

二つ目は、『「新しい米百俵」による人材育成と産業振興「長岡版イノベーション」の推進』です。新産業の創出、循環型社会に対応した取り組みを進めるほか、産業界の人材不足、物価高騰への対策もしっかりと進めます。

三つ目は、『長岡を元気にする活動の推進と魅力の発信』です。観光資源、長岡の歴史・文化を活かしながら、長岡の魅力を発信して、交流人口・定住人口の増加を図ってきたいと考えています。

四つ目は、『効率的で持続可能な行政運営』です。AIなど新しい技術の活用で行政サービスの質の向上を図りながら、業務の効率化に取り組んでいきたいと思っております。

以上の考え方を基に、令和6年度当初予算（案）を『社会の変化や災害を乗り越え成長し、明るい未来へまっすぐに進む予算』としました。

次に、予算の特徴です。一般会計は1,339億8,500万円で前年度比3.1%増です。特別会計、企業会計を合わせた総予算は、1.0%増の2,198億3,790万円となっております。大型事業が一部収束した中でも予算規模を伸ばした積極的な予算にしたと私は捉えています。

経済対策のための事業前倒しとして、国の補正予算を踏まえて、令和5年度補正予算に令和6年度予算に計上すべきものを一部前倒しで実施しております。補正予算と当初予算

を合わせた普通建設費は170億2,000万円となっております。

重点施策の四つの柱からそれぞれ特徴的なものについて説明します。

一つ目の柱『災害に強く誰一人取り残さない安全安心なまちづくり』についてです。中越大震災と7.13水害から20年という節目の年に能登半島地震が起きました。寺泊地域の津波対策や原子力防災、地域防災力の強化などを進めていきます。配慮を要する子どもと保護者への支援、不登校児童・生徒への支援体制を整備するとともに、子ども食堂や民間が経営する放課後児童クラブへの支援の充実を図ります。そして、認定こども園などの保育環境を整備しながら、子どもの成長と子育てへ切れ目なく長岡全体で応援する環境づくりを進めていきたいと考えております。

健康福祉の面では、「ながおかウェルネス事業」で、健康寿命の延伸に向けた取り組みを充実させます。また、介護事業所等のロボット見守り機器の導入、ひきこもり相談・支援体制の強化などを図っていきたいと考えております。

支所地域で特に人口減少の著しい中山間地域などでは、公共サービスが縮小していくのではないかという不安があると思いますが、こうした支所地域にしっかりと対応するため、支所長が独自の判断で機動的に執行できる予算を拡充します。また、集落支援員と地域おこし協力隊を増員して、地域課題の解決や地域の活力を作る活動をしてもらいます。このほか、鳥獣被害対策の拡充や、地域の生活道路の緊急対策工事を実施して、生活環境を充実するとともに、地域を見守る立場にもある地元の土木建設業者の仕事も確保していきたいと思っています。全市域のインフラの維持、コミュニティ活動への支援なども進めていきます。

二つ目の柱『「新しい米百俵」による人材育成と産業振興 「長岡版イノベーション」の推進』です。米百俵プレイス ミライエ長岡の西館を一つの核として、中高生向けのミライエアントレプレナー塾や、4大学1高専の学生と若手経営者・起業家との交流会を実施するなど、若者の人材育成を進めます。また、AIやデジタルアートなどの進化する技術に対応したデジタル人材を育成していきたいと思っています。

教育委員会では、Edu-diver構想の中で、新しい学びとして長岡教育情報プラットフォーム「こめぶら」でコンテンツをたくさん提供していますが、それとともに、ミライエ長岡をはじめとした学校外で子どもたちが学ぶ機会、学ぶ場を作っていきたいと思っています。また、中学校部活動の地域移行に向けた環境を整備していきます。小学校のスクール・サポート・スタッフを5人増員し、教員が子どもたちと向き合う時間を一層確保することで、さまざまな問題の解決に繋がりたいと考えております。

産業協創の拠点N a D e C B A S Eで、地域の産業界、4大学1高専・産業技術総合研究所といった研究機関・学校とともにタッグを組んでイノベーションを起こす動きを加速させていきたいと思っています。新築住宅のZ E H化や太陽光パネル・蓄電池の導入といった環境課題にも取り組んでいきます。枝豆の残さを家畜飼料に加工する実証実験を支援するなど、循環型社会に対応した長岡の持続可能な農業を育成していきたいと考えております。

官民連携による企業のデジタル化を支援しながら、DXの推進体制の整備を促進します。市内企業による留学生のインターンシップへの支援を強化します。ながおかペイやポッキリパスポート、ECサイトによる切れ目のない消費喚起や、一般住宅リフォーム支援の拡充などの物価高騰対策のほか、商工業、農業、建設業など地域のあらゆる産業と経済を下支えする取り組みを行います。

三つ目の柱『長岡を元気にする活動の推進と魅力の発信』では、まず女性の活躍を一層推進するため、ネットワークづくり交流会やセミナーを開催します。スポーツによるまちづくりを進めるため、プロスポーツも含めて、いろいろなスポーツを通じてスポーツをやることの喜び、楽しさ、生きがいをさらに作っていきたいと思います。eスポーツを通じた関係・交流人口の創出と体験機会に取り組むほか、地域のスポーツイベントや障害者のスポーツ活動を支える指導者や運営スタッフなどの人材育成・確保にも注力していきたいと思います。

長岡の歴史・文化を後世に継承して、観光資源を活かすまちづくりを進めるため、旧互尊文庫に長岡戦災資料館を移転整備する事業、全国闘牛サミット長岡大会を開催する事業を計上しています。

長岡の魅力発信により交流・定住人口の増加を図るため、民間のイベントを含めた市内のイベント情報をAIで自動収集して発信する情報サイトを構築します。また、市内宿泊客への名産品のプレゼントキャンペーンも実施します。さらに、ふるさと納税やクラウドファンディングを利用しながら、長岡ファンの獲得に努めていきたいと思います。

四つ目の柱『効率的で持続可能な行政運営』では、物価高騰の厳しい状況で、業務効率化、コスト削減に努めながら、持続可能な行財政運営の実現を図りたいと考えています。

今後の財政見通しについて説明します。令和6年度からの5年間で199億円の収支不足が発生する見込みですが、行財政改革を実施することで5年間で17億円の収支改善を見込んでおり、さらに執行時の節減による予算残の年度内繰戻しで、各年度25億円、トータルで125億円を見込んでいます。このため、差引き57億円が実質的な5年間の収支不足額となり、財政調整基金で補うこととなります。財政調整基金の年度末残高は5年後に41億円になる見通しです。物価高騰や人件費の高騰などで、1年間で数十億円規模の歳出が増えている中で、必要な取り崩しはしながら、今後も財政調整基金を管理していきます。

市税等の伸びは慎重に見込むべきだと考えており、行財政運営などをしっかりやりながら、財源を確保していかなければならないなどと思っています。

投資事業に係る見通しでは、必要な未来への投資をしっかりと行っていくという考えのもと、今後予定される大規模事業を収支に織り込んでいますが、建設地方債残高や公債費はそこまで伸びておりません。財政指標の見通しは、いずれも県内の自治体の中で良い方ではないかと思っています。財政指標は危険水準にはありませんが、上がり始めるとなかなか止まらないということもありますので、しっかり意識して今後も管理していきたいと思っています。この5年間では健全水準を維持できると考えています。

(記者)

磯田市長2期目としては最後の新年度予算編成となりますが、どのような思いで編成されたのかお聞かせください。

(市長)

市長就任当初から、これからは大きな変化の時代になり、そういったものに対応していかなければ、市民生活も長岡の成長もないと考え、長岡版イノベーションに一貫して取り組んできました。そのほかに、地域共生社会・コミュニティ作りを基本にした地域政策、人材育成や子ども達への新しい学びの提供、子育て環境を作っていくことも大事にしてきました。

これまでの政策の蓄積の上に、時代の変化の様子見することなく、自信を持ってさらに前に進めることが大事だと思っています。米百俵と市民協働の政策に邁進していけば、長

岡の未来は明るいものになっていくと思っています。

(記者)

予算編成にあたり、市長がトップダウンで指示して具体化された施策があれば教えてください。また、予算案の執行中に市長の任期満了を迎えることになりましたが、現時点で3期目の出馬についてお考えをお聞かせください。

(市長)

担当部局が考えてないようなことをトップダウンで施策にするということは、私自身あまりすべきではないと思っています。方向性は、トップダウンで明快に出していこうと思っています。その方向性の中から各部局が考えたもので、内容を膨らました方がいいとか、少し時期が早いとか、取捨選択の判断はありますが、基本的に私のトップダウンによる個別の施策はありません。

令和6年度予算案ができたところで、私はこれをできるだけ早く軌道に乗せていきたいと思っています、その次の3期目のことはまだ考える段階にはありません。

## 【会見項目2：令和6年4月1日付け組織変更（案）について】

(市長)

組織変更案についてご説明します。

(1) 「支所地域の安全安心な暮らしを支える業務拠点の設置」として、4月1日から市内2カ所目の地域事務所となる南部地域事務所を越路支所内に開設します。南部地域事務所は、越路地域、小国地域、川口地域の三つの地域を管轄し、公共施設維持管理、保健、農林、土木関連の業務を移管して実施します。

(2) 「生きづらさを抱える人に寄り添い、ともに生きる地域共生社会の推進」です。8050問題や、引きこもり状態の人の高齢化などさまざまな問題があります。民生委員の調査では少なくとも市内に218人のひきこもり状態の人がいるという報告もあります。それらを受け、福祉保健部福祉課に「ひきこもり相談支援室」を設置します。支援室では、保健師を中心に、ひきこもり状態にある人の社会参加や、自立に向けた支援のためのネットワークづくり、家族との連携を進めるなど、本人と家族への相談支援に取り組んでいきます。

(3) 「道路や橋梁の長寿命化に向けた道路ストックマネジメントの強化」です。インフラが建設の時代から維持、補修、管理の時代に入ってきたと言われていています。新たに作るものもありますが、今あるものを長寿命化していくことが大きな課題になっておりますので、道路ストックマネジメント業務を専門に担当する「保全対策室」を設置します。併せて、同室を設置する道路建設課の名称を「道路整備課」に改称します。

(4) 「配慮を要する子どもへの切れ目のない支援の実施」です。配慮を要する子どもが増えている中で、子どもたちへの支援、保護者への支援を各部局の連携を深めながら取り組んできたところですが、さらに強化するため、保育園への訪問支援を行う保育課すこやか応援係を、保護者支援を行ってきた子ども家庭センターに統合して、重層的な支援に取り組んでいきます。加えて教育部の子ども・青少年相談センターの指導主事を兼職にするとともに、心理士などの専門職の知見も活用して、乳幼児期から学齢期まで切れ目のな

い子どもと保護者への相談体制を作っていきたいと考えています。

(5) 「行政課題に機動的・効率的に対応するための組織のグループ化・班体制化」として、環境部では、環境施設課と環境業務課をグループ制にします。土木部道路管理課では、令和6年度に三島地域の道路維持管理業務を本庁に移管することに伴い、三島支所管内の現場対応を担う「地域担当」を配置し、同課を班体制とします。

(6) 「その他」として、政策企画課内に「総合計画策定担当」を新たに配置します。また、スマート農業を推進するため、農水産政策課の農村政策係を「次世代農業推進係」に改称します。その他の詳細は資料をご覧ください。

(記者)

配慮を要する子どもとは、多動性障害などがある子どものことですか。

(市長)

発達障害などの確定診断を受けた子どもだけではなく、発達段階ではそれぞれの子どもに特徴があり、学習上や集団行動上、みんなと一緒にすることが難しい子どももいますので、そういう子どもたちを配慮を要する子どもと捉えています。

(子ども未来部長)

確定診断を受けた子どものほかにも、集団生活が苦手だったり、生きづらさを感じたりする子どもが増えてきているという現状があります。このグレーゾーンと言われる子どもたちも含めた配慮を要する子どもたちの支援に取り組んでいきたいというものです。